



今日のトピック 新型コロナの影響がより深刻な新興国株式市場 感染抑制の成否でパフォーマンス格差が広がる

ポイント1 新興国市場は大きく出遅れ 底入れ後の反発力が弱い

- 新型コロナウイルスの感染拡大の影響で世界の株式市場は2月から3月にかけて急落しましたが、各国の大規模な財政政策や過去に例のない積極的な金融緩和を好感し、底入れしました。ただ、底入れ後の反発力は、先進国と新興国の株式市場で大きな差が生じています。新型コロナ対策で実施された行動制限により、先進国では新規感染者数がピークアウトし、景気回復への期待が高まった一方、多くの新興国では感染拡大に歯止めがかからないことが影響していると考えられます。

【世界株式市場の動向】



(注) データは2020年1月1日～2020年5月29日。

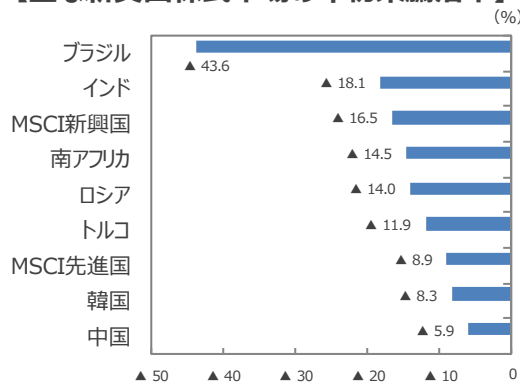
2020年1月1日を100として基準化。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

ポイント2 新興国の中でも格差拡大 感染抑制の成否が影響

- 新興国市場の中でも、新型コロナの感染抑制の成否によりパフォーマンス格差が生じています。主な新興国市場の株価の年初来騰落率（5月末時点）をみると、ブラジルが▲43.6%、インドが▲18.1%となるなど、感染拡大が深刻な国の下落率が新興国全体（▲16.5%）よりも大きくなっています。
- 一方で、中国が▲5.9%、韓国が▲8.3%など感染封じ込めに成功した国は、先進国全体（▲8.9%）と比べても下落率が小さくなっています。

【主な新興国株式市場の年初来騰落率】



(注1) データは2019年12月末比の株価騰落率。2020年5月29日時点。

(注2) 各市場の株価指数はMSCIインデックス。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

今後の展開 引き続き感染者数の動向がカギ

- 米ジョンズ・ホプキンス大学の日本時間5月31日の集計によると、新型コロナの世界の感染者は累計で600万人を超えました。特にブラジルやロシア、インドなどの新興国で感染拡大が続いており、世界保健機関（WHO）は警鐘を鳴らしています。
- 今後の新興国株式市場は、引き続き感染者数の動向がカギとなりそうです。感染拡大に歯止めがかからないければ経済を再開しても停滞が長引く可能性が高く、新興国市場の中でも選別が続くとみられます。

ここもチェック! 2020年5月28日 米企業業績は4-6月期に大底を形成へ
2020年5月12日 Withコロナの『経済活動再開』は暗中模索

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。